第 12 回北上川水系河川整備学識者懇談会　議事概要

（事務局説明を除く、質疑応答について記載）

（○：委員、□行政委員、●事務局）

1. 北上川水系河川整備計画の進捗状況

●資料-2 の説明

○今後は、県管理河川の防災対策や防災意識の向上に、どのように国が関与していくかが重要である。県管理の支川で豪雨が発生した場合のシミュレーションを、流域管理として国が実施しておく必要はないか。

○また、国が実施している河川整備の進捗状況と、県が実施する河川整備の進捗状況から、水系全体のバランスを整理していただくと、今後の防災のために良いのではないか。

●県管理区間の浸水想定区域等の見直しも踏まえ、県と連携しながら検討していきたいと思います。国・県の水系全体のバランスについても県と調整しながら検討して行きたいと思います。

○田瀬ダムで発生した流木について、流木対策や捕捉効果も検討いただきたい。その後開催された国体に合わせて、非常に急な復旧作業も実施しており、こうした経験は今後の参考になると思うので、是非資料をまとめていただきたい。

●田瀬ダムでは、8 月以降の連続した出水や台風 10 号により、相当量の流入があったことから、緊急の流木の除去作業をしました。相当量ではありましたが、流木除去作業を 1 カ月ほど行い、今回の国体の競技に間に合わせたという状況です。今回の対応については、関係機関にも情報を発信して活用して行きたいと思います。

○岩手県が推進している ILC に関して、県と連携されているのか。今後、河川整備計画には、どのように反映して行くのか。

●ILC は、重要施設と認識しており、岩手県や関係機関と調整しながら、対応していきたいと思います。

○家屋倒壊等氾濫想定区域について、現在の氾濫シミュレーションでは、局所的な地形の影響による流速変化は再現できない。実際に氾濫が発生した場合の流速とシミュレーション結果が乖離するおそれがある。

●工学的な課題は、重々承知していますが、昨年の関東東北豪雨では逃げ遅れた方が多数おり、事前に早期避難しないと家屋が倒壊する危険があることを周知し、防災意識を高めていただくため、今回公表しています。

○流域内において、危険度の高い災害時要配慮者施設がどの程度あるか把握しているか。

●県において、浸水想定区域内に限らずリスクの高い地域にある施設を整理中と伺っています。

2. 北上川総合水系環境整備事業について

●資料-3-3 の説明

○事業着手段階で B/C を算出したうえで、今回の算出値と比較整理しているか。また、完了地区の B/C と残事業の B/C が相当程度違うが何故か。

●事業着手段階で個別の B/C は算定していません。本事業は最初から 24 地区の事業を計画していたわけではなく、単純に比較できません。残事業については、完了事業と比較し事業費が低く、河川の利用者数が多く見込まれる地区が残っているため、評価が大きく出ています。

○CVM アンケートにおいて、返ってこなかった約２／３の未回答をどう解釈するかによってＢ／Ｃの値に影響する。

●現在は、統一手法に則り算出しており、ご意見については今後の参考とさせていただく。

○本日の現地視察で見た、中の橋の高欄のハンギングバスケットは、視対象となる土木構造物には合わないと思うがいかがか。

□参考にさせていただきます。

○サケを増やし観光資源にすると記載があるが、どのような対策を実施しているのか。

●サケの数を増やそうという取り組みは考えていません。中津川に遡上するサケと親しむことを目的としており、地域の方々に参加していただいてパンフレット作りや産卵場を整えることを考えておりますが、今後、議論していきたいと思います。

○下流の自然再生事業は、作成したモニタリング計画により、どのような評価をするのか。

●モニタリングの視点としては、河川に横断工作物を作っているため、遡上を主観としています。また、周辺の生物や環境等も含めて、学識者へ相談しながら進めていきます。

○撤去した中洲の再堆積を検討すべき。モニタリングをして、どのように対応するかを教えていただきたい。

●モニタリングの中で不具合が出てくれば、河川管理者の維持管理として中洲の撤去等の対策を実施します。

○事業の目的に、良好な河川環境の保全・創出と記載がある。良好な河川環境とは何かという定義は書かれていないので、国が進めている生物多様性、良好な河川環境というのはなかなか見えないと思う。自然環境に関する事業が少ないので、保全を含めて、今後の進め方やその後の評価について検討していただきたい。

○治水・利水・環境の調和が、分離していると思う。環境事業、治水事業のそれぞれの達成率を、国土交通省としてどのように考え、地域とのコンセンサスをどのように作って

いくのか。

●河川整備計画を策定する段階で、地域とのコンセンサスを河川整備計画の中に盛り込むのが本来の姿でした。川のあるべき姿と聞いても、学識者の皆さんと地元の思いが逆だったりして、なかなか一本化できるかわかりませんが、コンセンサスを高めていくことを事務局として検討させていただきたいと思います。

以　上